

学校の防災力強化に対する取組について

大規模自然災害から児童生徒の命を守り、安全を確保するためには、学校における「防災管理」と、児童生徒が自らの命を守り抜くために主体的に行動する態度などを育成する「防災教育」の両面から取り組むことが重要です。愛媛県教育委員会では、教職員の防災士資格の取得を推進するほか、防災管理研修会の開催等を通して、専門知識と最新動向を反映した危機管理体制の構築を図っています。

また、「学校防災教育実践モデル地域研究事業」では、県内4市町をモデル地域、県立学校3校をモデル校に指定し、学校・地域・関係機関が連携した防災教育を推進しており、その取組内容を「防災教育推進委員会」で全市町に共有することで、県内全域の防災力の底上げを図っています。

1 令和5年度教職員防災士養成講座

教職員防災士を養成するとともに、防災士としての知識及び技能を活用した防災教育・防災管理の展開など、学校の総合的な防災力の向上を図ることを目的として、令和5年7月10日（月）・11日（火）の2日間、エスポワール愛媛文教会館にて令和5年度教職員防災士養成講座を開催しました。

本講座では、「気象災害・風水害」、「地震・津波への備え」など防災士に必要な専門知識を習得するほか、グループに分かれてハザードマップを用いた「災害図上訓練」を行いました。そして、最終日には防災士資格試験を行いました。

＜防災士養成講座の様子＞



2 令和5年度教職員防災管理研修会

各学校の防災士資格取得者や防災管理担当者の防災意識の啓発を図るとともに、防災に関する最新の知見や動向を習得することで、学校における防災教育や管理体制の充実・強化を図ることを目的として、令和5年10月12日（木）・13日（金）の2日間、愛媛県生涯学習センターにて令和5年度教職員防災管理研修会を開催しました。

本研修会では、「学校と教育のチカラ ～3.11に学ぶ防災教育の視点～」と題して、国立大学法人宮城教育大学 特任教授 武田 真一 氏から御講演をいただき、東日本大震災発生時の状況について、報道では知ることができないリアルな被害状況に触れるとともに、学校がどのような行動をとったことで児童生徒の命を救うことができたかを学ぶことで、地震に対する事前の備えの必要性などをあらためて認識できました。

また、「南海トラフ巨大地震にどのように備えるか」と題して、香川大学 四国危機管理教育・

研究・地域連携推進機構 特任教授 金田 義行 氏からビデオでの御講演をいただき、最新の研究データに基づいた南海トラフ巨大地震発生時の被害想定等を学ぶことで、学校が想定すべき地震による被害等を見直す機会となりました。

<教職員防災管理研修会の様子>



3 学校防災教育実践モデル地域研究事業（県立学校3校）

令和5年度は弓削高等学校、八幡浜高等学校、吉田高等学校の3校をモデル校に指定して、本事業を行いました。

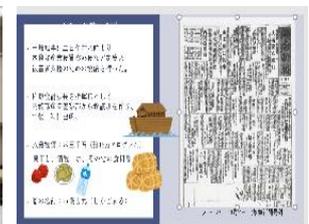
(1) 弓削高等学校

弓削小学校及び弓削中学校と合同で防災避難訓練を実施するほか、文化祭では先進校視察のパネル展示や非常持ち出し袋の展示を行い、保護者や県外の入学希望者に対して、防災に関する意識啓発を図りました。



(2) 八幡浜高等学校

「防 SURVIVAL-備えあれば憂いなし」と題して、夏季特別講座で火きりぎねでの火起こし練習や簡易ベッドや簡易トイレの作成体験を行うほか、横浜国立大学で開催された「ぼうさいこくたい2023」にオンラインで参加しました。



(3) 吉田高等学校

総合的な探求の時間において、生徒が校舎内危険個所の点検を実施するほか、宇和島市危機管理課・宇和島市社会福祉協議会・宇和島NPOセンターと連携して、高齢者宅を訪問し、家具転倒防止器具の設置を行いました。

